



近藤 浩 議員 (改革みずほの会)

接戦となった町長選挙をどう捉え、今後の町政に臨むか



町長 何が支援につながったのか しっかり見ていきたい

**質問** 本年4月の町長選挙において、現町長は、基盤がほとんどない対立候補に数百票差まで迫られた。

さまざまな要因があると思うが、一つは変化を求める町民が多かったということである。このことをどう捉え、今後の町政をどう進めていくのか、町長の所見を伺う。

し、百人が百人満足していることはないと思う。いろいろな意見があつて、どれを選択していくかが民主主義である。別の方を支援した方もいるので、どのような取り組みが支援につながったのか、しっかり見なければならぬと思う。

**町長** 条約の批准に関わらず、命や平和な社会の大切さを考えていただければいい。事業を継続していく。



本年4月25日に行われた瑞穂町長選挙

**質問** 瑞穂町でも5月8日から75歳以上の高齢者のワクチン接種が開始された。4月26日からインターネットと電話での予約が行われているが、予約受付をめぐり、多くの町民の方々から問い合わせ、要望が寄せられ、改善

を求める声があがって5倍のアクセスが電話回線に集中し、つながりにくい状況となったが、回線を増やして対応し、現時点では落ち着いている。予約の集中を避けるため、65歳から74歳までの方には5歳刻みで接種券を送付した。また、自宅から出られない方に対しては個別訪問接種で対応する。現在12歳から64歳までの方への対応を調整している。

香取 幸子 議員 (自民誠和会)

新型コロナウイルス ワクチン接種について



町長 5歳刻みで接種券を送付する



**質問** 新型コロナウイルス感染症まん延を抑え込めず、3度目の緊急事態宣言が発出された。人流抑制のため、多くの制限が要求され、飲食店などの時短営業・休業要請、テレワーク、外出の自粛など、いわゆるステイホーム

が続いている。経済的・健康的不安などでストレスがたまり、その結果、子どもに対する虐待の発生・増加が懸念される。こうした状況の下、瑞穂町における虐待の発生状況とその対処・対策について、町長の所見を伺う。

**町長** 2年度の虐待新規相談受件数は、元年度と比較し減少している。しかし、コロナ禍で社会全体が見えにくくなっている状況がある。注意して経過を見守る必要がある。町では、子ども家庭支援センターを中心に、要保護児童対策地域協議会を構成している。協議会と関係団体と連携し、児童虐待の未然防止に取り組んでいる。また、面接や家庭訪問、電話やメールを活用し、子どもや保護者への支援を行っている。今後も連携を強化し、町全体で虐待防止に努めていく。

山崎 栄 議員 (自民誠和会)

杉浦町長の目指す 2期目の町政について



町長 将来持続可能な自立都市を目指す

**質問** 町は新たな目標として、第5次長期総合計画を策定し、4月の町長選挙により、2期目の杉浦町政がスタートした。コロナ禍でのワクチン接種事業の優先はもとより、町長公約の大きな柱として、「チャレンジできるまちづくり」、「健康で健やかに暮らせるまち」、「子どもたちのびのび育つまち」、「つながりと活力あふれるまち」、「協働型社会の形成と行政効率化」を挙げているが、どのような運営を行っているのか、所見を伺う。

下澤 章夫 議員 (自民誠和会)

コロナ禍における 子どもの虐待



町長 連携を強化し、虐待防止に努めていく



子ども家庭支援センターひばり

**町長** 産業の活性化、安全・安心の確保など、将来持続可能な自立都市を目指すことを



開発が期待される新青梅街道沿道